

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称		令和8年度 第1回福津市観光産業活性化協議会
開催日時		令和8年5月29日（金）午後3時00分～午後4時30分
開催場所		福津市役所本館2階 庁議室
委員名		（1）出席委員 永松毅文 小役丸秀一 花田千賀子 塩川浩一 浄見譲 中川久美 小島恵 大隈信彦 山口尚志
所管課職員職氏名		経済産業部長 高山康和 商工観光課長 梶原龍生 観光振興係長 村上尚寛 観光振興係員 熊井智之
会 議	議 題 （内 容）	1. 開会 ・委嘱状の交付 ・会議録の作成方針の決定 2. 議事 （1）観光基本計画に基づく取り組み状況について （2）令和7年度福津市観光産業活性化協議会報告書案について 3. 閉会
	公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	1 名
	資料の名称	資料1 第2次福津市観光基本計画概要 資料2 観光基本計画に基づく取り組み状況について 資料3 令和7年度第2次福津市観光基本計画の中間見直しの結果について報告書案
会議録の作成方針		☐ 録音テープを使用した全文記録
		☒ 録音テープを使用した要点記録
		☐ 要点記録
		記録内容の確認方法 会長が指名する委員による確認
その他の必要事項		

審議内容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1. 開会

・委嘱状の交付

永松会長より中川委員へ委嘱状の交付。

・会議録の作成方針の決定

事務局：福津市附属機関の会議の公開に関する要綱、会議録の作成方法について説明。

決定事項：会議の公開。事務局により会議録案を作成し、委員による確認の上で会議録の完成とする。

永松会長：出席委員のうち、名簿順に会議録の確認依頼をすることの提案。

決定事項：会議録の確認は、大隈委員及び山口委員とする。

2. 議事

(1) 観光基本計画に基づく取り組み状況について

(事務局) 「資料2 観光基本計画に基づく取り組み状況」基本方針3. ブランドの構築や管理、販売促進のための活動を強化する 基本施策(1)に基づき説明。

(永松会長) 観光基本計画に基づく基本施策(1)の各取り組み状況について、委員の皆様からご意見等お願いします。

(浄見委員) 広告媒体を活用するには予算が必要である。無料で掲載できる媒体についても、プレゼンテーションが求められるため容易ではない。フリーペーパーへの情報提供は随時行っており、媒体側からも情報提供の依頼を受けている。
個人的な意見であるが、福岡空港に掲示されていた福津市のPR媒体がなくなったことは非常に残念。予算が確保できるのであれば同様の取り組みを実施してほしい。
また、SNSの活用は有効な手法であると考えており、今後重点的に活用していきたい。

(大隈委員) 「新原・奴山古墳群」について。土日を中心に案内業務を行っている。案内した人数に変化はないが、旅行会社からの案内依頼は減っている。
DMOや観光協会、市のホームページを活用し、世界遺産としてもっとPRしてほしい。

(永松会長) DMOが主に情報発信を担っている。掲載したい情報がある場合は、内容をある程度整理・加工したうえで依頼すると、DMOの負担軽減につながるのではないかと思う。

(塩川委員) 何かを進めていくには資金や専門家が必要であると感じている。福津市は財政的に厳しい面もあるため、観光協会としても収益確保に取り組む必要がある。また、関係団体の役割分担についてこの協議会の中で明確化してほしい。助成金等の確保を積極的に進めるためにも誰が主体となって取り組むのか、明確なビジョンを示す必要がある。

(永松会長)	DMO や観光協会の財源の多くは、市の補助金や委託料を活用している。自主財源で運営している DMO や観光協会は全国的にも少なく、多くの組織が自治体の補助金を人件費も含めて運営の財源として活用している状況である。市としては何かお考えはありますか。
(事務局)	市としては、観光協会に対し事業補助金を交付している。DMO については、事業を軌道に乗せることを目的として令和 4 年度から令和 6 年度まで補助金を交付していた。令和 7 年度からは、3 つの事業を業務委託として担っていただくこととなり委託料を支出している。 市の財政状況は厳しく、補助金額や委託料の増額を見込める可能性は低い。塩川委員からもご意見のあったように、国の補助金等については各部署が情報収集を行い、活用できる財源については積極的に確保していく動きはある。観光分野においても、観光庁の補助金をはじめとした外部財源を活用しながら、観光施策を推進していく必要があると考えている。
(浄見委員)	DMO は現在、補助金の交付は受けておらず、なごみの委託業務や観光事業の委託により、年間約 3, 0 0 0 万円の委託料を受けている。こうした委託事業がなくなった場合、DMO の事業を現在の形で継続することは難しくなると思う。今後、DMO の運営をどうするべきか意見をいただきながら考えていく必要がある。
(塩川委員)	観光協会は「ふっくる」を運営委託しており、委託料と補助金を含め年間約 1, 1 0 0 万円である。観光庁の補助金は毎年交付されるものではなく、活用期間も定められているため、その後をどうしていくのかを考えていく必要がある。
(大隈委員)	市は国や県からの補助金はどの程度交付されていますか。
(事務局)	県からは毎年宿泊税交付金の交付を受けている。約 2 年前の福津市の宿泊者数や日帰り来訪者をビッグデータから抽出し、県が宿泊税として得た財源を各市町村に再分配している。福津市については、令和 8 年度に交付される予定額は 4 8 0 万円である。福津市は他自治体と比べて宿泊施設が少ないことから、交付金も少ない状況である。国の補助金については、DMO へ委託している事業の委託料のうち、約半分にあたる 4 8 0 万円に対し、地方創生交付金を充当している。
(永松会長)	市や DMO、観光協会の現状について話を伺うことができた。こうした課題については、この場ですぐに解決できるものではないが、市と関係団体が引き続き協議を重ねていく必要があると考える。また、SNS による情報発信自体に費用は発生しないが、発信に至るまでの労力が必要であり、人件費の負担も多いと思う。DMO による情報発信については成果が表れていると感じている。さらに先の展開につなげていくための方法や業務も含めて今後の課題である。
(事務局)	次に、観光基本計画に基づく基本施策（２）について事務局の方から説明をお願いします。 観光基本計画に基づく基本施策（２）に基づき説明。

(中川委員)	DC キャンペーンは、JR を含む 6 社が連携して実施しており、国鉄時代から約 50 年続いている。1 年間で 4 つのエリアで開催されており、全国から多くのお客様にお越しいただくことを目的とし、今年は福岡・大分で先日開催されており、7 月からは熊本で 3 か月間開催予定である。全国から多くのお客様に訪れていただく機会となっており、非常に大切なキャンペーンである。DC キャンペーンは開催の約 1 年前から準備を進め、熊本でプレキャンペーンを実施した。プレキャンペーンから 1 年ほどかけて開催予定の県内各地の観光スポットを訪問し、地域の方々や観光関係者と連携しながら、様々な観光コンテンツの企画・造成に取り組んでいる。観光コンテンツをまとめた冊子を作成して旅行会社へ持っていき提案を行う。DC キャンペーン期間中は、旅行会社の商品や JR を利用して、全国から多くのお客様にお越しいただいている。
(永松会長)	JR としては開催地域内の各地へ幅広くお客様に足を運んでいただけるよう取り組まれている。次回九州で開催される際には、その機会を生かしながら、福津市にも多くの方に訪れてもらえるように取り組んでいければ良いと思う。 次に、観光基本計画に基づく基本施策（3）について事務局の方から説明をお願いします。
(事務局)	観光基本計画に基づく基本施策（3）に基づき説明。
(小島委員)	観光協会としては、広報ふくつに「ふっくる」や「ビーチハウス」のイベント情報を掲載いただいている。2 か月前に原稿を提出する必要があるため、事前にスケジュールを決めて対応している。広報ふくつは多くの福津市民の方に見ていただけることから、広告宣伝の手段として十分に活用させていただいている。広報紙には 2 か月前に決まったイベントを掲載するため、突然決まったイベントについては SNS で発信するなど、それぞれの媒体の役割を使い分けながら発信を行っていく必要がある。
(浄見委員)	DMO としても、これまでと変わった取り組みを行っているわけではなく、同様の形で情報発信を行っている。
(山口委員)	福津市に観光大使はいますか。
(事務局)	福津市の観光大使として、新木さくら氏が就任している。
(山口委員)	大家志津香氏は観光大使ではないのですか。知名度もあり良いと思う。
(事務局)	大家志津香氏は予算や所属事務所との調整等が必要であり、観光大使への就任は難しい状況である。 新木さくら氏には、無償で福津市観光大使を務めていただいている。
(浄見委員)	市は観光大使の活動について、活用できる予算はありますか。
(事務局)	観光大使に充てる予算は確保していないが、観光大使の必要性も踏まえ、課として予算化を考えていくことも必要であると考えている。また、タレントの起用については市のイメージにも影響するため、慎重な判断が求められる。
(永松会長)	観光大使については、お金をかける方法もあれば、影響力のある方に無償で親善大使として活動いただいている自治体もあ

	る。そうした事例を参考にしながら、狭いエリアでも影響力のある方に無償で活動していただくことも、1 つのやり方として良いのではないかと思います。 次に、観光基本計画に基づく基本施策（４）について事務局の方から説明をお願いします。
(事務局)	観光基本計画に基づく基本施策（４）に基づき説明。
(山口委員)	宮地嶽神社で10年ほど前に相撲が来ていたイメージがあり、私も実際に見たこともある。相撲は特色のある催しであり、観光客の誘致につながるのではないかと思います。
(浄見委員)	宮地嶽神社が相撲部屋の受け入れをして、場所等の提供を行っていた。市の財政状況を考えると予算の確保は難しいのではないかと思います。
(永松会長)	山口委員の意見を通じてそのような仕組みがあることを知ることができた。今後も委員の皆様から様々なご意見をいただきながら、良い取り組みにつなげていければ良いと思う。
(山口委員)	水産高校近くにあるグランピング施設はどのような状況なのか気になっている。協力しながら何らかの取り組みができれば良いと思う。
(小役丸委員)	水産高校近くのグランピング施設はフランチャイズ方式で運営されている。全国的にグランピングブームも落ち着いてきているように感じており、閉鎖や売却を検討している施設もあると思う。ぶどうの樹でもグランピング施設を運営しているが、一定の宿泊客に利用していただいている。
(山口委員)	10月にオープン予定の入浴施設「夕陽館」と近隣のグランピング施設を連携させ、何か取り組むことはできないのですか。
(事務局)	市として特定の民間事業者に対して特別な支援を行うことは、行政の立場として難しい部分がある。一方で、近隣施設同士との連携は必要であると考えている。事業者間の連携や顔つなぎについてはDMOに対応していただいている。連携というところではDMOに協力をいただきたいと考えている。
(浄見委員)	DMOも非常に厳しい状況。DMOもビジネスとして成り立つようにしていく必要がある。本協議会で福津市の観光の方向性を示して、その方向性に沿って市が取り組んでいけるようになると思う。現在の状況の中で新たな取り組みを進めることは難しいと思う。
(塩川委員)	今後どのような体制で進めていくかを考える必要がある。それぞれの自治体で手法や運営体制は異なるため、それぞれの地域にあった方法を考えていくべきである。山口委員から意見のあった取り組みについては、事業者とのつながりもある観光協会が取り組めるかもしれない。
(永松会長)	新たな投資を伴わなくても実施できる情報発信に取り組んでいくことも大切である。夕陽館についても、情報を公開できる段階になった際に現地見学の機会を設けていただければ、新たな視点や意見が生まれ、今後に活かせるのではないかと思います。
(花田委員)	DMO 事務局長はさまざまな場面でPR活動に取り組まれている。豊村酒造や津屋崎地区にもバスツアーを含め多くの来訪者にお越しいただいており、非常に感謝している。そうした取り組み

	の成果が現れていると感じており、今後も継続していただきたいと思う。
(小役丸委員)	豊村酒造のツアーは単独ツアーですか。
(浄見委員)	宮地嶽神社の菖蒲まつりと豊村酒造を組み合わせたツアーが実施されている。
(永松会長)	地域としてとても良い取り組みである。
(小役丸委員)	市の観光入込客数の多くは宮地嶽神社だと思う。民間事業者も宮地嶽神社の集客力を活かしながら取り組んでいけたら良い。宮地嶽神社を中心に、津屋崎地区や古墳などを巡る周遊ツアーを実施するのも良いと思う。ぶどうの樹をはじめ、福津市内には食事ができる場所も多くある。岡垣町では「酔いどれツアー」を開催し、複数の事業者が連携し、取り組んでいる。福津市でもバスツアーが増えると面白いのではないかなと思う。
(塩川委員)	小役丸委員の言われるようなツアーは良いと思う。福津市内を巡りながら、ぶどうの樹のワインの試飲など、滞在時間を長くできるコンテンツを組み合わせる旅行会社へ提案していくのも良いと思う。
(浄見委員)	DMO が中心となって行うのですか。
(塩川委員)	観光協会も旅行業を持っているので、対応できると思う。
(浄見委員)	誰かが中心となり、売り込みを行っていくことが必要。今後の問題として DMO が役割を担っていかなければならないと強く感じている。
(永松会長)	どこをターゲットに情報発信していくのが重要。個人向けであればホームページや SNS での発信で十分であるが、旅行会社によるツアーの働きかけを行う場合は、実際に現地を見て回り、価値を感じてもらえれば商品化につながる可能性がある。そのためには交通費や滞在費などの予算が必要になってくる。観光誘致をどのような方針で進めていくかについて、市と関係団体で十分に協議していく必要があると思う。 委員の皆様から出た意見は事務局でまとめていただきたい。
(2) 令和 7 年度福津市観光産業活性化協議会報告書案について	
(事務局)	「資料 3 令和 7 年度第 2 次福津市観光基本計画中間見直しの結果について（報告）【案】」に基づき説明。
(花田委員)	2 ページ（2）の基本方針の標題については、「観光交流施設・地域の機能強化」ではなく、「観光拠点を整備し、観光消費額を拡大する」ではないかなと思う。 3 ページの記載については、観光には地域住民の関わりも重要であると感じている。藍の家には全国から多くの方が来られており、その方々に地域のことを伝えている。こうした小さな取り組みも大事であり、地域の人々が観光に関わることで、リピーターにもつながっていくのではないと感じている。
(大隈委員)	議論しにくい内容ではあるかもしれないが、予算や体制についても課題として考えていくことが必要ではないかなと思う。
(永松会長)	課題として位置付けるのであれば、まとめの中に予算や体制に関して検討が必要として入れて良いのではないかなと思う。委員の皆様が今後に向けて必要であるとの認識であれば、市の方で

まとめの中に新たに加えていただければと思う。議題については以上になります。ありがとうございました。

4. 閉会